

2022年度 校内研究全体計画

伊万里市立松浦小学校

1 研究主題

考えを伝え合い、深い学びへ向かう児童の育成
～さまざまな対話を通じた算数科学習指導の研究～

2 主題設定の理由

新学習指導要領では、「学びに向かう人間性」「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」の3つの資質・能力を育成することが重視されており、そのために「主体的・対話的な深い学び」になっているかという視点から授業改善を目指している。

本校は、緑豊かな自然に囲まれた全校児童104人の小規模校である。穏やかで素直な児童が多く、学習にも真面目に取り組んでいる。一方で、学習中は自信がもてずに自分の考えを伝えることを苦手としている。人前で発表するときも声が小さかったり自分の思いをなかなか話せなかったりする児童も多い。3年前より算数科の指導の研究を始め、過去2年間は「主体的に学びに向かう」ことについて実践を行ってきた。自分で学習スタイルを選択することで「友達と話して解決したい」という思いを少しずつ伸ばすことができた。しかし、学び合う活動がただ伝える活動で終わっている場面が多く、考えが深まっているとは言えないことが多かった。また、学習スタイルを選択したことで話すことへの意欲は高まっているものの、「算数が好き」だと感じている児童は学年が上がるにつれて少なくなっている現状がある。

そこで、本年度は、前年度の研究の柱である「自己との対話」や「自由な対話」の学びを生かし、主体的に対話に向かい、協働的な活動を通して自己の学びを深めていく児童育成を目指した指導方法を追究していきたい。「ペアでの対話」、「少人数の班での対話」、「近くの人との対話」、「自由な対話」などさまざまな対話の中から、児童の実態や授業のねらい、展開に合わせて、授業者が対話の場を設定する。その際には、話型を例示したり思考ツールを用いたりしながら、友達との対話の中で自己の学びを深めていく。自己の学びを深めているという姿は、例えば、これまで気付かなかったことに気づき「なるほど」と納得している姿や、友達の意見に対して尋ねたり自分の言葉で言い換えたりし、それに対してさらに問い返すような姿である。また、「話したい」という思いをもたせるための場面設定や「話しやすい」学級の雰囲気づくりも大事にしていく。児童同士がお互いに対話をしながら、他者との違いを認め分かち合おうとする協働的な活動を充実させ、友達との関わりの中で「できた」という成功体験や達成体験を繰り返していく。このような学びを通して、算数の楽しさを感じ取ることができる授業づくりに取り組んでいきたい。

3 研究の目標

問題解決のために、児童の実態や授業のねらいに応じた対話の場を設定し、自分の考えを表現しながら他者と練り合うことで、自己の学びを深めることができる算数科学習の在り方を探る。

4 研究の仮説

算数科の学習において、自力解決の学び合いの場面では選んで対話の場を設定し、児童同士が関わり合いながら自分の考えを伝え合い練り合っていく授業を行えば、自己の学びを深める児童が育つであろう。

5 研究の内容と方法

(1) 主体的に学ぶ算数科の指導方法の研究

結果を検討する学び合いの場面での対話方法の選択の在り方

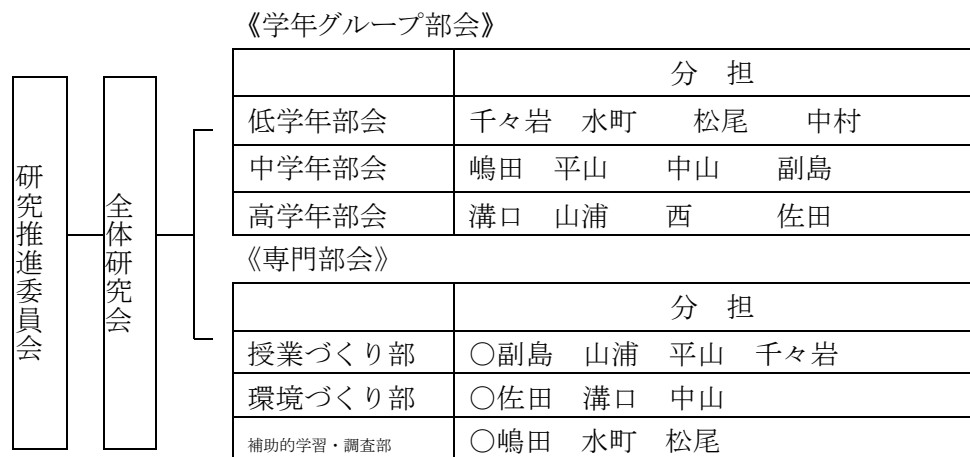
- 授業の実践
教材、資料、問題提示、発問、指示、評価、支援策、板書、ノート指導
- 理論研究
講師招聘、先行理論研究
- 指導力向上のための研修
ワークショップ形式の授業研究会、研究授業
- 支援体制の工夫
学習教材の工夫、ICT活用
- 自分の考えを明確にもたせるための学習過程の工夫
問題提示、めあて、見通し、自力解決、学び合い、まとめ、振り返り
- 自分の考えを表現する場面の工夫
操作活動、数・式・図・表・グラフ等を活用、算数用語や数を使った表現
- ◎ 発達段階や児童の実態に応じた学び合いの工夫
 - 【対話のスタイルを選択】
 - ・ ペア対話
 - ・ 近くの人との対話
 - ・ グループ対話（3～4人）・・・意図的なグループ、考えが似ている者同士、ランダム など
 - ・ 自由な対話
 - 【話型の例示】
 - ・ 友達への伝え方、質問の仕方など
 - ・ 一往復半の対話
 - 【対話に用いる思考ツールの例示】
 - ・ 表、PMIシート、ベン図、Yチャート、Xチャート、ステップチャートなど
 - 【対話に用いる道具】
 - ・ ホワイトボード、タブレット、ワークシート、広用紙、具体物

- ヒントコーナーの工夫
 - ・自己内対話ができるようなヒントコーナーを設ける。
 - ・既習事項を確認したり、具体物操作をしたりできるような場を設ける。
- 教師のコーディネート
 - ・発言をつなぐ、考えを広げ、深める発問
- 新学習指導要領に対応した学習評価
 - ・目標と学習評価を対応させる

(2) 授業を支えるための取組

- お互いを認め合える学級の風土づくり
- 基礎・基本の定着
算数タイムを実施
- 家庭との連携と生活習慣の改善
「きらきらかあど」の実施、自学ノートの取組（4年生以上）、家読の推進
- 環境の整備
児童のノートや算数学習用語等の掲示、「算数コーナー」の設置・補修
- 言語活動の広がり
とっくん、漢字検定、漢字タイム

6 研究の組織とその内容



- 専門部・・・○授業づくり部（実践、実践資料、先行研究資料、児童ノートの紹介）
 ○環境づくり部（算数コーナー、算数科教具の補修）
 ○補助的学習・調査部（算数アンケート（6月・12月）の内容検討、集計、分析等、算数タイムの充実）

※研究推進委員会：校長（中村）、教頭（西）、教務（副島）、研究主任（千々岩）、
 高学年（溝口）、中学年（嶋田）

- ① 研究推進委員会
研究の基本的な事項の検討、研究テーマの理論の追求と実践方法の研究、企画、立案、研究日程計画、研究推進の円滑な運営
- ② 全体研究会
研究内容・方法等についての検討、授業研究会の実施、授業事後の授業研究会
- ③ 学年グループ部会
研究内容の具体的実践、授業実践における教材研究、児童の実態把握及び情報交換、研究成果の記録と研究資料の提供
- ④ 専門部会
 - ア 授業づくり部
算数科の授業づくりの共通理解、算数科に関する資料の収集（実践資料、先行研究資料、他校の研究発表資料・情報の共有）、児童のノート紹介
 - イ 環境づくり部
算数コーナーの設置・見直し・補修、算数科教具の補修
 - ウ 補助的学習・調査部
算数科の意識調査の実施及び分析（全学年対象6月と12月）、算数タイムの充実